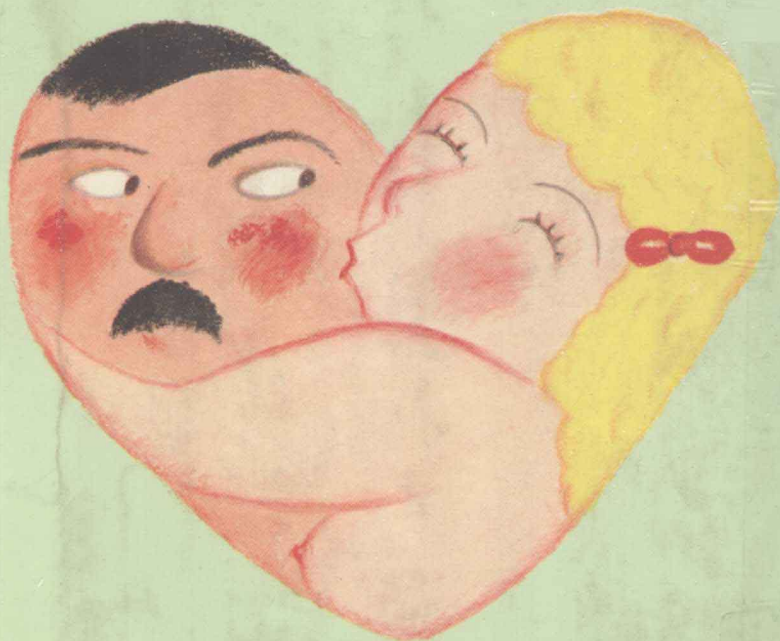


ミスターちゃんぼつの

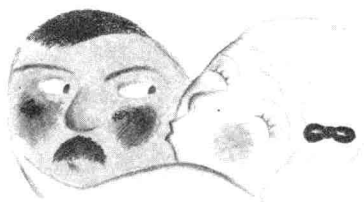
恋愛博物館

小松左京



ミスターちゃんぼつの
恋愛博物館

小松左京



光文社

お願い——

この本をお読みになって、どんな感想をもたれたでしょうか。「読後の感想」を左記あてにお送りいただけましたら、ありがたく存じます。なお、このほかに、「カッパの本」では、どんな本を読まれたでしょうか。どの本にも、一字でも誤植がないようにつとめておりますが、もしお気づきの点がありましたら、お教えください。ご職業、ご年齢などもお書きそえくだされば、幸せに存じます。

東京都文京区音羽二の十二の十三

(郵便番号112)

光文社 出版局

ミスターちんぼつの 恋愛博物館

昭和50年7月30日 初版発行

著者

小^{まつ}松^き左^{きよう}京
大阪府箕面市粟生新家 544-45

発行者

小保方 宇三郎

印刷者

鈴木 貞三郎
東京都文京区水道 1-2-1
公和印刷

発行所

東京都文京区音羽2
振替 東京115347

株式会社
電話 東京

光文社
(942) 2241 (代)

落丁本・乱丁本は本社でお取替えいたします。(ナショナル製本)

© Sakyō Komatu 1975

(分)0-0-95(製)97001(出)2271(0)

Printed in Japan

ミスターちゃんぽんの
恋愛博物館

こ まつ さ きょう
小松左京

前 白

いつのころよりならん、余が陋屋・臥猪庵に、しげしげと出入りする女性あり。独身、年齢不詳なれど、そろそろハイミスの仲間入りとおぼしく、容姿まづ十人並み、人柄才智教養まあまあ、ひと昔前ならば、あれで縁づかぬは不思議と、世間は首をひねり、親は気をもみ、親戚の世話焼きが、やいのやいのと縁談ならべたてるところならんを、そこは当代、縁者の中にさぞかしかげでやきもきする向きもあらんも、表だって押しつける様子もなく、本人また、恬として焦る風情もなし。かといって、男女のことに頭から興味を持たぬわけでもなく、むしろそちらのほうには好奇心旺盛、折りにふれては余をつかまえ、入りくんで説きにくきことを根掘り葉掘り聞いては、困惑赤面させ、思いもかけぬ鉄砲を、正面からぶっぱなして、これでも海山千年と自負する中年男を、仰天させることもしばしばなりき。

ぼるの、性の手引きの巷間氾濫する昨今、花はじらう十代の乙女たりとも妙につつこんだ知識を持ち、おしなべて女性は「耳年増」になる傾向あり。まして心身ともに健康に熟れ切り、少しは世間の飯も食って、恋人、ボーイフレンドの何人かも持つ年ごろともなれば、そのぶしつけなる質問の数々をきくに、よろず技巧、小手先に走る当代の弊をこうむって、人生男女の道に求め期待するところ、やや偏頗に歪むおそれ無きにしもあらず。——といって、今さら男女のことはまず心が大切とか、これが人間の道、女の守るべき道徳とか、古くさい「女大学」説いても、通ずる相手でもなければご時世でもなし。ここに一計を案じ、最近とみに活気を呈し来たった動物行動科学、習性学などという

学問の成果をひきつつ、鳥獸虫魚の性行動の微妙さ、面白さより、人のせつすの「自然」の姿をうつして見せんと試みれば、これはこれで興味をそそられたと見え、質問ますます熾烈をきわめ、ついには、余の文庫にまでもぐりこんで、みずから文献をあさり、ときには犬のチン骨、オットセイの何がしの乾物など、あやしきコレクションを持ち出し来たつて、これなあに？ などと余を周章狼狽させることもあり。

かく珍問答をくりかえすうち、いつしかその問答のテープを、週刊誌「女性自身」(光文社)編集部を知るところとなりて連載話が持ち上がり、あまり若い女性向きじゃないよ、と尻ごみしつつもついに押し切られ、脱線顛覆数知れぬ問答の態ありのまま、連載めでたく五十回を超え、あまつさえここにあらためて一卷にまとめ、上梓の機会を得たるは、まことに瓢箪より駒、余ならびに聞き手にとって望外のことなりき。

まとめるにあたつて読みかえすに、あまりに脱線多岐にわたつて慙愧に堪えず。もとより当代若き女性の情操を高め、人格を陶冶する態のものにはさらあらねど、満天下花の婦女子にとって、たまにはむさくるしき中年おっさんの、気楽なエッチ放談をきく機会もまた、人生男女の道を察する一助にもならんともみずから言いわけし、汗顔をぬぐつてあえて世にいたす。題して応用えそろじい・恋愛博物館。

臥猪庵主人

小松左京敬白

目 次

なぜ男は女の体を求めるのか……7	
女はいつ許すべきか……11	
おしゃべり男はニワトリ野郎……15	
“恋愛”と“友情”が区別できる薬……18	
男性はなぜすぐ触りたがるの？……21	
“性の快感”女と男はどう違う？……24	
人類の破滅！ エネルギー危機とセックスの乱れ……27	
一夫一婦制って本当にいいの？……30	
年下の彼をどう扱えばいいのかしら？……33	
男と女どちらがウソつき？……36	
男はなぜボインが好きなの？……39	
私の愛を彼につたえたいの……42	
いとこ同士の結婚はいいかしら……46	
ズボラ男とキメキメ男どっちがいいか……50	
男の不潔なニオイが大嫌いなんだけど……54	
女のカンは当たる？ 当たらない？……58	
ケチな男との交際はやめるべきか……62	
処女膜って価値あるの？……65	
なぜ彼はわたしのミニスカートを怒るの？……68	
“耐える力”女と男どっちが強い……71	
口の悪い彼の本心を知りたいの……74	
オジサマ族との結婚は幸せか？……78	
彼がなかなかキスしてくれないの……81	
どっちが強い“男と女の恨み節”……85	
美容整形するのはいいことかしら？……88	
“誇り高き男”の本心を知りたいの……91	
女の悪魔性を生かす不安の美学とは……95	
女性の発情期って本当にあるの？……98	
男の“遠吠え”に隠された心は……101	
女性の爪は“色と力”の武器なり……104	
体毛が濃くて恥ずかしいんですが……107	
汗かき女って嫌われないかしら……110	

男がさすらいの旅に出るとき……	113
彼と相性 ^{あいしやう} が悪いのじゃないかしら？……	118
男心をそそる露出の方法教えます……	122
女の酔っぱらいはなぜ嫌われる？……	128
女性とたばこと性欲と……	133
男を見抜く“目の玉”をつくろう……	138
夏の終わりに処女をすてる理由は……	143
男性ってどんな香水が好きかしら？……	147
毎晩ステキな彼の夢を見たいの……	151
男を奮 ^{ふる} いたさせる女仕掛人の手口……	155
秋になるとなぜ涙がこぼれるの？……	159
結婚って本当はなんなの？……	164
男のひげはどんな意味があるの？……	167
男は女に、女は女に嫉妬 ^{しつと} する理由……	171
優雅な“ヒマつぶし”のお話……	174
男性ってみんな“面食 ^{めんく} い”かしら？……	178
恋わずらいで眠れないんだけど……	181
なぜ男女がいっしょにお風呂に入るの？……	185
なぜ不美人がハンサムと結ばれるの？……	189
人間はなぜ失恋自殺するの？……	192
女の別れ 男の別れ……	195

なぜ男は女の体を求めるのか

へ男って、どうしてこうすぐに、女の体を求めてくるのかしら？

どうしてって、こりゃ困ったナ。

へ先生も、やっぱりそうなんですか？

そりゃ、まア、ボクだってやっぱりそうですよ。……なんだってそんなことを言わせるんだ！

ただ、これがいじなところなんだが、その求め方がうんじやないかナ。

へヘ、どうちがつているの？

だって、近ごろの若い人の求め方は、すぐズボラなんじやないかナ。世の中が豊かで寛容になっちまって、エレキでも車でもすぐ手に入るものだから、それに慣れて、「求める」ことにすぐズボラになっている。女性に対して同じだ。

「キミがくれなきや、他にいくらでもくれる女性がいるから、そっちへいっちゃうヨ」

なんて簡単にセマるって話も聞いたけど、あなたもそんなふうにセマられたんじゃないの？ それともあなたはセマるほうかな。

——エヘ……。

それじゃ、女性のほうがめんくらったり、憤慨するのはあたりまえだ。人間だから憤慨ですむけれど、これがムシだったら大変だよ。カメムシの属（*1）にこんな例があるんだ。いちばん原始的なやつは、手ぶらでいって「やらせてちょうだい！」とメスにかかるが、セックスをしている最中に、カマキリのようにメスに食われてしまう。オスにとってセックスは命がけだ。このムシの場合「死ぬ死ぬ」って叫ぶのはオスのほうだね。

もうすこし進化したやつは、餌になる虫を持っていって、メスがそれを食べている間に、大急ぎでセックスをすませる。

「お食事いかがです」と食べ物でつついてホテルへ連れこむ。川上宗薫さんなんかがよく書いているやつだ。

いちばん進んだ種類になると、メスが気に入る「草の葉っぱ」をプレゼントする。メスが喜んで、その草をいじってる間に、後ろか

*11 生物分類上の
一階級・界・門・類・
綱・目・科・属・種
に分類される。

たとえば小生の家に
いるネコを分類法で
表わせば、食肉目、
ネコ科、ネコ属、畜
種ネコとなる。

属が違う動物の間で
は混血の子はできな
いが、種が違っただ
けだと一代雑種が生ま
れる（ヒョウとライ
オンのアイノコのレ
オポンなど）。

らかかつて、ゆつくりたのしんでやる。人間の女性の鼻先に、ダイヤのネックレスなんかちらつかせて、「まあ、すてき！」なんて、恍惚としてるうちに後ろから抱きすくめるのとおんなじ。

へじゃ、先生の求め方はどうなの？

ボクらの世代は大変だ。なにしろ女性を見れば、口説かないと礼儀に反すると思っていなくらいだったからね。そのかわり女性をモノにするためには、あらゆる努力をし、どんな面倒な手つづきでもいとわない。

トリだってそうだよ。

南海の孤島におもしろいトリがいるんだ。

このトリは、メスが巣をつくる習性があるの
で、オスが口説こうと思ったときは、木の枝
を一本くわえて持っていく、メスの巣にそれ
をさしだす。メスは相手が気に入らないと、
それをポイとほうりだしてしまふ。

キミらだったら、気に入らない相手からでも
ブレゼントをされると、それにひかれてぐ
ずぐずつきあったりするだろ。だが、このト
リのメスはそんないさぎよくない真似はしな
い。ところが気に入ると、

「あんたならオーケーよ。でも、簡単には許
せないわヨ。もつと材料をはこんできて」
オスは言われたとおり、木の枝を一生けん
めいはこびつづける。

このトリは木のまったく石ころだらけ
の海岸では、小石をたくさん積んで巣をつく
るが、その場合でも、オスは苦勞して遠くま
で行って、流木を捜し、小枝を拾ってきて、
それを彼女の小石の巣の上に立てるんだ。石
ころだらけの広い海岸に、石を集めた巣がで
きていて、小枝がポツンと立っていたら、そ
れは「もつか結婚中」のしるしというわけ
だ。

へわア、おもしろいわね。わたしたちもトリ
みたいなしよかしら……」

そうだよ。女性の貴重さを教えてやるべき
だよ。

もう一つ誘いのダンス（*2）を踊る水鳥の
話を例にあげよう。広場に集まってオス、メ
スがグループに分かれて向かい合って並ぶ。
まずオスが出て行って、いかにもメスの気を
ひくような、腰をゆすった踊りをして「どう
ぞ、どうぞ」というわけだ。するとメスがい

*2 動物が相手に意思表示をするが、特に動作の型のきまっているものをディスプレイという。

われわれがよく目にするのは、ネコやイヌやニワトリが敵に対して示す威嚇・攻撃のディスプレイ。雄蝶が雌蝶のまわりを上になり下になりして飛んだり、クジヤクが羽をパツと広げたり、シカが尾を上げて白い毛の部分を見せるのは、誘いのディスプレイ。

やいやをし、オスが「そんなこと言わずにどろぞ」なんて。

へまるで「舞踏への招待」みたい

まさにそのとおり。最初の誘いの段階でひじ鉄を食う者、いいところまで連れてきて逃げられる者などいろいろだが、だんだんメスもその気になってくれば口説きは成功。双方の興奮状態が昂まってくると、くちばしをふれ合わせてがちゃがちゃいわせて、それはにぎやかなメダタシメダタシとなる。

人間の種族にだっていい例がある。

その種族は、女にほれても、ぜったい直接交渉をすることは許されない。男はまず親のほうに正式に申し入れをする。親が親族会議を開いて「よからう」ということになる、と、やっと娘からオーケーがでる。

だが、それからが大変。男が彼女を得るために「婚資づくり」をしなければならぬ。金とか牛とか弓矢とかね。その社会ではかなり大きな財産をそろえるわけです。

へ日本の結納のもっと大げさなやつね

いかにもさよう。ここにいたって、娘の所属する部落では、日を選んで祭りを開く。そ

こへ男が娘をつれにやってくる。娘の母親が泣いて「行かないでくれ」と娘にすがる。

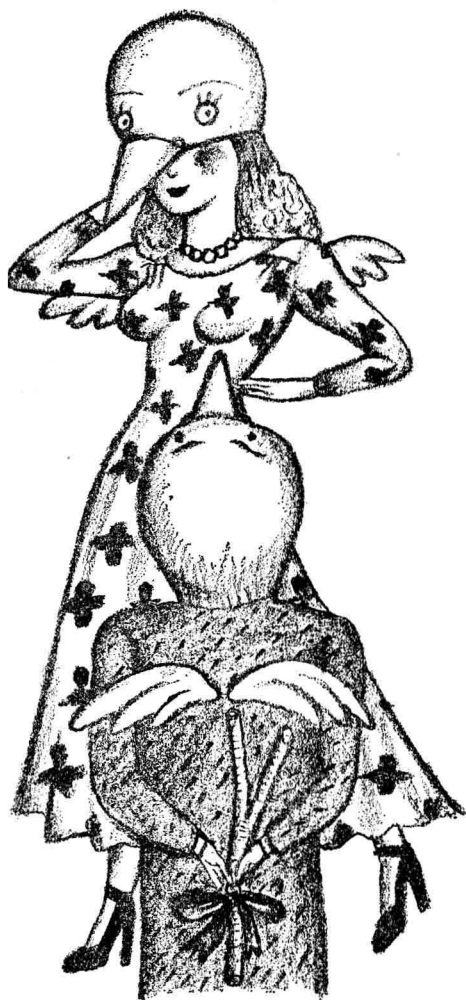
男は母親の泣き声に負けないように、自分の雄々しさをしめす踊りを踊って、やっと彼女をモノにすることができんだ。つまり、これだけ大変な「儀式」がいる。

しかし、その儀式のプロセスの間に、その社会のいろいろな心理問題がほぐされていくし、この「結婚ドラマのプロセス」をみんなが楽しんでるんだよ。

かほど男女間のことは精神的、心理的に大変なことであり、もともと、こんなに「個性」の発達した動物のセックスにはややこしい手つづきが必要だったんです。

あなたのまわりの男どもで、ここまで獅子奮迅の努力をするやつがいますか？

ダダをこねさえすれば、ママがすぐなんでもあたえてくれる。その習性でキミの肉体を求める。これに困ってあまり簡単にあたえるようでは、男からエレガンスな「馬力」を発揮させてみるチャンスを奪うことになる。それに、だいたいそんなイージーなことを求めるのは幼児型の男だと思ふな。



たしかに「子どもっぽい」ことは「ビューティフル」だけど、赤ん坊をロッカーにほうりこむような無責任な「子ども」ばかりになっちまったら、人類全体のセックスの衰弱を招くかもしれん。セマってきたらはねとぼして、女をモノにするきびしさを、おもい知らせてやったらどうですか？ そうしないと、いまの若い男はますます退化して、恋愛もセックスも幼児型になる。

へでも、はねつけるたびに、男が退散して、結局だれもモノにしてくれなかったら？
ええと、そんなときはですナ……弱ったね。そんなときは女のほうから恋とセックスはかくあるものぞとセマって見たらどうかね。
へじゃ、そうしてみよう。手はじめに先生にセマってみるか
か、かんべんしてくれ、わしや逃げる！
へダメオヤジ！ 幼児型中年め！

女はいっつ許すべきか

へ先生、わたし、いま困っていることがあるんです

恋愛問題ですか？

へもちろん、そう。彼、わたしをだいにしてくれるし、一生けんめいだし……。それだけに、ハタと困ったの。どのへんで許したらいいのかしら……

許すって彼が何か悪いことをしたのかい。

へそうじゃないわよ。鈍感ね

というところ「許す」というのは……ああ……わア、エッチ、ものすごいこといわはるウ。

へセンセ、そんなあたふたしないで答えて

えっと、これはむずかしい問題だな。あんまりじらすと、逃げられてしまうというんでしょ。——そうだなア、一つの見きわめは、彼の一生けんめいさがどれくらいかということだなア。

たとえば——。

蛾^ガの世界を見ると、メスがフェロモンという媚^{メカ}薬^{ガク}みたいな誘因物質を出す。それがオスの触角につくと大変。オスは猛烈な馬力を出して、どんな遠いところへでも、メスを捜して何十キロも追いかけていったという例があるんです。

このように、オスというものはしんそこメスにほれると、ふだんは考えられない馬力を発揮する。昔の歌にもあるでしょ。

へ会いたさ見たさに、こわさを忘れ……

なんてね。恋は男を雄々しくする。レベル以上の驚異的な力を発揮させる。

しかし、いまの若い人は、そんな馬力を発揮しようとはしないんじゃないかな。

キミの彼氏はどう？

へ……

だいたい、いまの男女共学というのは、ちよつと問題があるような気がする。——何も一年ちがいで共学の恩恵にあずかりそこねたヒガミでいうんじゃないけど——、成熟したオスというのは、ほんらい大きな攻撃性をもっている。それはメスや子どもよりずっと大きいやつをね。そして、オス・グループとメ

ス・グループは、ある時点から切りはなさなければ、この攻撃性を自己制御できる一人前のオスには育たない。

「男の子がショボクしてるのはそのせい？」

それもあるんじゃないかな。大きくなった男女をいつまでも同じに一緒に生活させるのは、いわばいつまでも「子ども扱い」することになってくるんじゃないかな。

古いの新しいのとよくいうが、明治、大正のころは、都市生活でのセックスは大変フリーだったんだ。ただし男も女もしっかりしていて十六、七歳で立派な大人だった。だから恋愛問題でうじうじ悩んだりしない。

江戸時代には儒教道徳が支配していたようだが、これも武家の社会だけで、町民階級にはあまり及んでいない。小咄に、この町内に処女はいないってことになる、「昨日、トメ公のところで生まれたぜ」というのがあ

るくらいだね。

サル社会だと、ボスザルがいて、その下にサブリーダーがいて、すぐその周りにメスのグループが従っており、さらにその周辺に、主として若者ザルで構成される「周辺オ

ス」がいる。

メスのグループには、たくさん子どもがいるわけだが、男のサルも小さいあいだは、そのグループの中に一緒にいることができる。

赤ん坊のうちはセクシュアルデファレンシエーション（性差）が低いからね。

だが、ちよつとでも男くささが出てくると、中にいるリーダーたちから、たちまちいちばん外側へ追いはらわれる。

これがサルの「周辺落ち」（*3）というやつだ。

「まだ小さいのに可哀そうじゃない」

しようがないね。これが一人前の男になるステップなんだからね。

周辺落ちをした若いサルは、しばらく周りでうろろろしているが、そのうちに覚悟を決めて「群れ落ち」をする。ひとりぼっちの離れザルになって旅に出るんだ。

そうして力を貯えたと、自信のあるやつは他のグループのボスザルの所へ行って、決闘をいどむ。勝てば自分がボスかりーダーになれるが、負ければふたたびあてのない旅ガラスーいや旅ザルかなーとなって腕をみがきつ

*3 サルはオスが青年になると群れの中心部から周辺に押し出される。

人間の社会でも似た現象があり、典型的な例が「若衆宿」である。15歳くらいになると親元を離れて青年グループだけで生活し、大人になる訓練をする。

アフリカ社会の一部では、成人するためには、成人する前に当然若者は一人旅をしなくてはならないと考えられていてこれをテンベアとい

う。寂しさに耐え、村の外の世界の広がりを知り、よその部落で一宿一飯にあずかりながら、人間形成がなされる。今のこの過保護の社会でさえ青年はテンペア衝動を起こす。春先の家出とか、無銭旅行……こういうものは社会の制度が忘れていても、人間の中にサル時代から続いている、大人になるための重要なプロセスなのかもしれない。

づける。恋愛もセックスも、勝つ日がくるまではすべておあずけだ。

人間の世界には、この「群れ落ち」をさせなければならぬ男がゴマンとしているのに、いつまでもメスの世界で、甘やかしている。男のほうもうれしがって「ボークはキーミの友だち」なんて、甘ったれた声で友だちの延長線上に恋愛があると思ひこんでる。

ところが、男女関係というのは最終的にはセックスの融合だけど、それまでに、衝突、抵抗、闘争、和解といったプロセスを通じて、性の「他者」を発見し、その関係から社会の構造を把握していく、妥協の許されない「人生の学校」なんですよ、キミ(いいこというなア、オレも……)。

渡り鳥のヒナが傷ついたので、人間が可哀そうにおもって、池で飼っていた。

時期がくると、どこからか親鳥が飛んできて、飛び方を教えようとする。だが、過剰保護の中で育ったそいつは、ついに海を飛びこえるだけの力も自信もなくして、小さな池の中で餌を与えられて暮らし続けた。

へそれはそれで幸せなんじゃない

そうかもしれない。だが、広い海原を自分の力で飛びこえたという誇り高く力強い充足感を一生味わうことがないわけですよ。

飛び出すには勇気がいる。傷だらけになることもある。訣別の悲しみもある。

しかし、それは必ず新しい世界を発見する喜びをとまなっているものです。

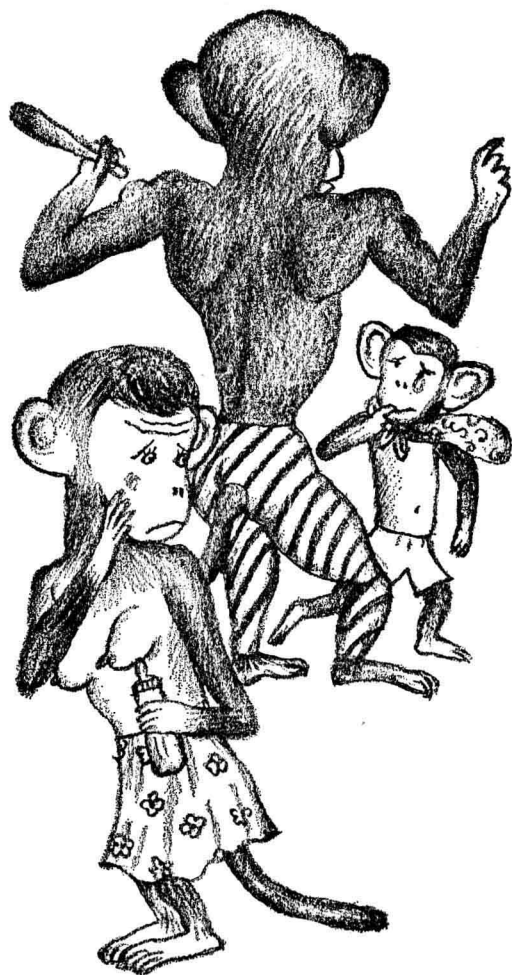
男とはそういうものであってほしいと思う小生は、古い野郎でござんしょうか？

男はやはり、行動力、たたかいといった属性を持っていて、そういうものにふりまわされるんじゃないくて、そういうものをのりこえて、昇華させることによって立派になってゆくものだと思うな。

オットセイのオスなんか大闘争をやつて勝つた一頭だけが、すべてのメスを所有して、王者の地位につく。あぶれたオスは巨大なペニスをもなくおつたてて……。

へもつと上品に！

それじゃ、まあ、巨大なオチンチンをおつたててカオと鳴いている。人間はオットセイとちがつて、はるかに「性の分配」がうまくいっているけど、それでも「ワレメちゃん」が欲



「しいよ」とカオカオ鳴くようなオスにはなりたくないと思うんだがねえ。
 ところできくけど、彼はキミのために命がけで闘い、何千キロも遠しとせず、嵐をついて追ってくる勇氣はある？
 へ何千キロもネー、飛行機の切符でもわたし

てやればくるかもしれないなア
 また！ そのとおりすぐ男を甘やかすことばかり考える！ 甘やかすなら中年以上にしなさい。——たとえば……エヘン！ 小生にやさしくするとか……。
 へやな感じ！